

府中市生涯学習審議会（平成24年度第2回）会議録

1 日 時 平成24年5月28日（月）午後3時～5時

2 場 所 府中市役所北庁舎3階 第5会議室

3 出席者（敬称略）

(1)委員13名

川内 清文、小林 繁、小林 清次郎、澤井 幸子、設楽 厚子、
芝 喜久子、鈴木 映子、田野倉 晴美、寺谷 弘壬、戸島 忠彦、
比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

※ 坂本委員、平形委員は欠席。

(2)職員4名

町田生涯学習スポーツ課次長、
茂木生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、
市ノ川企画係長、大木事務職員

4 連絡・報告事項

1) 配布資料の確認

①レジュメ、②前回会議録（案）、③人権作文発表会作品集、④社教情報NO,66

2) 前回議事録の確認について

各委員に校正を依頼した会議録（案）は、一部校正後、市民に公開すること、ホームページに掲載することが了承された。

3) 視察の報告（4月23日）

視察先：武蔵野プレイス（武蔵野市）、調布市市民プラザあくろす（調布市）

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

- 参加させていただきとても良かった。武蔵境駅からも近く、最近の色々なものを取り上げている。あの場所であれば、もう一度行きたいと思った。色々な面で良く考えて行き届いていた。稼働率も高い。図書館にしても充実していた。調布もボランティアにすごく力を入れて呼びかけていた。一生懸命やっている姿に感動した。
- 武蔵野プレイスの設備は良いと思った。その設備も然る事ながら、市民に来てもらって時間を過ごしてもらおう姿勢がはっきり分かるような構造になっていると思った。駅前でアクセスも良く、新しい施設ということで誰でも良くは見えるが、や

はり迎え入れる姿勢があるかどうかというのは、設計した人、或いは運営に携わる人の考えが出ているのだと思う。調布市の方は、小ぢんまりとしていて、あまり動きがない。もう少し積極的に働きかけるような姿勢が出てもいいと思った。

- 武蔵野プレイスは駅前にできたことは素晴らしいことだと思う。今まで色々な施設を見学したが、徒歩1分かからないような所は初めてで、最新設備にも感動した。府中市のルミエールやグリーンプラザも充実しているので比較してみたが、やはりルミエールの場合は駅から行くときは少し迷うが、市外の方からは図書館が充実しているので、わざわざ市外からも来るという話を聞く。生涯学習センターに行く場合も駅から遠く、ちゅうバスで行くようになるので、駅から近い武蔵野プレイスに感動した。
- 武蔵野プレイスは前に一度講座で利用したことがある。あれだけ色々なことを考えて運営されているのは、相当市民の声も聞き入れていたのだと思う。特に、子どものスペースは他にはない。大人は入れないという制限もあり、子どもたちの居場所ができていると思った。今一番抛り所のない中学生が過ごせる場所があることは非常に素晴らしいと思う。府中の中学生は抛り所がなく、学習センターでも正式には中学生を受け入れてないので、基本的にうろうろしている子がいる。そういう子がいなくなるように考えていかないと大変だと思う。あまり年齢にこだわらず、色々な人を受け入れるようなことを取り上げていくという課題を示された気がした。
- 武蔵野プレイスでは読書や音楽だけだと思っていたが、一か所ロッククライミングができる壁があり驚いた。調布市では、誰でも気軽にテーブルで雑談ができるということで、居場所づくりにとても良いと思った。
- 武蔵野プレイスは施設が立派で設備も整っている。人もたくさん来ているのか聞いてみると、開館から4月までに100万人に達している。これは意外と早く、1か月11万人が訪れるということなので、数字で見ると人が来ているのだと思う。子どもを対象とした漫画や雑誌などの図書を並べ、目線も低い位置になっていて配慮ができていると思った。指定管理者の課題としては、役割分担が全てはできないので難しいし、予算的にも市が98%出しているということだった。調布の方は、昔からの積み上げてきたものもあると思うが、あまり気取らず気軽に行けるのでと思った。この日は、たまたま雨・曇り空だったので人の集まりが少なかった。
- 武蔵野市の施設は良かった。これから10年位経つと大変良くなると思う。図書館が中心になっているということで、新聞を見ている方もいた。45億5000万円かかったということで、お金からすると府中ではもうできないと思うが、できるとすれば、府中駅の南側が開発されつつあるので期待している。グリーンプラザの

1階の喫茶店はかつて外国人が国際交流センターとして使っていたかと思うが、どうしても駅の近くにないといけないと思う。府中市の図書館は少し駅から離れている。府中駅にできれば一番良い。調布の場合は昔の公民館というか、青年団等の子どもたちが集まるような施設になっていて、10年経っても良くなれないと思う。むしろどこかに貸して、そのお金でもっと充実させた方が良いと思った。

「武蔵野プレイス」や調布「あくろす」という名前は覚えにくい名前なので、せめて多摩地域だけでも共通の名前にしたら良いと思う。共通にできないのであれば、括弧して共通項を作っておいた方が皆の記憶に残ると思う。インターネットで検索する時も名前を憶えていないとできないので、例えばプレイス(市民〇〇センター)としておけば武蔵野市の施設だとわかる。これから恐らく、こういう施設がたくさんできると思うが、名前をあまり奇抜に作りすぎて、中身が伴わないのはどうかと思う。恐らく武蔵野市もそうだが、武蔵野市民以外の方も使うということだったので、その場合は小金井市や調布市と似た名前だと行きやすいと思った。これから名前を考えていかないといけないという印象を受けた。

- 調布市も武蔵野市も施設を建てた要因というのは、市民活動の拠点を作ろうということだった。特に、武蔵野市は市民活動の拠点の中に色々な項目を入れようということで、市民との協議会という組織を作って、その中で検討した結果、図書館を中心とした建物にしようということで構築された。3階に市民活動のフロアがあり、その他は市民が色々な所で活動できるということで、基本的には各階にはすべて図書が置いてある。図書を中心として、その中で活動しようという動きを作っている。それが、最新の中身であり、例えばそこを使うときには、最上階では自分のパソコンを持ち込むことができる。特に武蔵野市は、98%市がお金を出していて、運営も市が主体になっている。非常に良い形で進めているなど感じた。

調布市は社会福祉協議会が中心になって運営している。最近まではあまり活発ではなかったが、そういう形をとってからけっこう人が出入りしたり、色々な催しが行われたり、活発な動きをしている。こういうものが府中にはあるかということ、なかなかイメージがない。府中駅の南口の開発について、5、6階が市民活動の拠点としてフロアを買い上げる。そこを市民活動に拠点として展開するというので、協議会も作られて検討している。

- 武蔵野プレイスの子ども広場の対象年齢はいくつまでか。
- 小学生から高校生まで。
- 武蔵野プレイスと調布市のあくろすと違う施設を見せていただいた。これからの答申にも活かせていけたらいいと思う。

4) 平成24年度都市社連協 定期総会の報告(4月21日 多摩市)

- 定期総会までは多摩市が会長市だった。役員会で決めていったことだと思うが、アンケートをとり、それを総会で活かしていこうとしていた。今回の総会で議事進行が滞った。多摩市が社会教育委員会という会議の名称を「学びあい育ちあい推進審議会」に変更した。そういう部分も含めて問題になった。それから都市社連協の会計報告など説明不足が目立っていた。会則改正については継続審議になり、色々難しい問題を抱えてしまった。
- 提案としては、都市社連協の構成員をその市の独自の立場の人を加えたいということで、「社会教育委員に準ずる人を含む」という言葉を加えたいという趣旨だった。本来は規程を改正する場合、構成員を変える際はどのような人が構成している組織なのかを考えて、その組織の構成員を変えたいという提案をすれば趣旨も分かりやすいし、理解も得やすかったと思う。それが、目的の文言を変えるという提案だったので、目的まで変えて「準ずる社会教育委員」を入れるのは、おかしい提案だという批判的な意見があり、話がまとまらず收拾がつかなくなった。
- 会則の第2条目的だけを変え、第4条組織はそのままというのはおかしいと思った。

総会後の研修では、宇都宮大学生涯学習教育研究センター准教授の佐々木英和さんが「にないあいの社会教育を目指して～「教育としての社会教育」の意味を再考する～」と題して講演。いろいろなテーマの中で、「会話力を磨いて地域の中へ」ということで、その重要性を改めて認識した。2人1組になって話しを聞き、話の内容を相手に伝えるということを交互にワークショップ形式で行った。話した内容が相手によく伝わっていないと思った。逆に要領良く話すことができないということが分かった。佐々木さんは「地域社会に馴染めないという理由の一つに、コミュニケーション下手ということがある。特に退職後の中高年は顕著である。中高年のコミュニケーション力を磨く需要が高まってきている。」と指摘した。三鷹市では酒会という会があるようで、字のとおり酒を飲みながら、いわゆる「飲みコミュニケーション」というのが有効ではないかという話だった。

- その前に都市社連協について、事務局より説明をお願いしたい。
- ➔ 都市社連協は東京都の市町村で構成されており、区部は入っていない。今回の問題にもなっているが、そもそもなぜ区部だけで社会教育連絡協議会を作っていないのか。通常だと、区部、市部、東京都の3つで連携をとるものだが、現在は東京都と市町村の社会教育委員で構成している。区部は社会教育委員という組織がほとんどないので、現在は市町村と東京都だけで社会教育に関する交流をしている。
- そして、その中で5つのブロックに分けられて、府中市は第5ブロックになって

いる。そういう色々な問題を抱えた都市社連協の定期総会に出席してきた。そして、その問題を抱えた形で稲城市が会長市になった。稲城市の会長は、前回副会長を務めていた方ではない、新しい方が務めている。

5) 平成24年度都市社連協 役員会・拡大役員会の報告(5月24日 稲城市)

➡ 本配布した資料の協議1について、都市社連協は各市の社会教育委員の会議の他に、

- ・都市社連協の役員会…会長、副会長、会計が出席
- ・拡大役員会…会長、副会長、会計、第1～5ブロック幹事市の会長が出席
- ・理事会…全ての参加自治体の会長が出席
- ・総会、交流大会…全ての社会教育委員が出席

今回の役員については、

・会長市…稲城市、副会長…羽村市、あきる野市、会計…稲城市になっている。各ブロックの幹事市は、第1ブロック…日出町、第2ブロック…国立市、第3ブロック…日野市、第4ブロック…小平市、第5ブロック…府中市となっている。この役員会・拡大役員会には必ず、東京都も参加している。

■ 会長市である稲城市で行われた。今回配布した資料の協議4について、定期総会・交流大会の実施内容の整理や表彰制度見直し、理事会等の会議のあり方、全社連の加入の継続、会則の改定について審議が行われた。これらの審議の実施内容については定期総会に研修という項目が入っていたが、今回は時間がなさすぎるので、表彰という形を定期総会の時にやった方がいいのではないか、また、交流大会の時に社会教育委員の研修をやったほうがいいのではという提案があった。いずれも理事会で決定される。

また、24年度、25年度の交流大会の日程について、最初の多摩市の定期総会の時に研修会をすでに開催しているので、25年の12月に交流大会と研修会をすることが提案されていた。今後については、7月26日に理事会で審議をし、決定していく予定になっている。保留項目については、各ブロックから意見をもらうことになった。

表彰制度の見直しということで、従来は7年以上の委員が表彰状、10年以上の委員が感謝状をもらうことになっていて、前会長は感謝状になっているが、改正に向けて提案されたのは、①廃止した方がよい。②感謝状ということで継続。③なくてもよい。④委員が関わる優秀な活動を行う団体を表彰した方がよい、という意見が出ているが、拡大委員会ではそこまで細かくする必要はないという話しがでていた。なので、第2条の中で目的とずれてしまう項目になってしまうのではないかと

いうことで、無しになった。

理事会のあり方について、理事会を廃止した場合どうするのかということについて、無くしてしまおうという意見が出ていた。今後について縮小していくかを2月の理事会までに方向性を出していくという報告があった。

次に、全社連の加入継続について、個々のブロックとして負担金を払って加入している。ここで、継続をするのか判断していくということだが、継続の必要性がわからないと理解できない。

- ただ、ブロック会議の中で問題を協議・審議して都市社連協に出ていくことになるので、追い追い皆さんのご意見をいただくとこになる。会長の意見だけを持っていくわけにいかないの、その時はご協力いただきたい。

3 協議事項

1) 第5ブロック研修テーマについて

- ➡ 配布資料の協議2をご覧ください。都市社連協の第5ブロック研修会について、幹事市である府中市が中心となり実施する。実施するにあたり、都市社連協の共通テーマとして「絆ーわたしたちの輝くまちづくり～“つなぎあい”は“にないあい”へ～」としている。このテーマに沿って各ブロックが独自の研修テーマを決めて実施することになる。5月24日拡大役員会では、第1ブロックのみ研修テーマを「“まちづくり”～“ひとづくり”」と決めていた。前日出町町長に講演をお願いすることになっている。各ブロック研修テーマについて、6月29日までに会長市に研修計画書を提出することになっている。

時期については、10月までに実施することになっている。これは、12月1日に開催の交流大会で、ブロック研修会の報告をすることになっているので、10月中に実施してほしいということだった。

このブロック研修会の開催経費については、会計から6万円を預かっているの、その範囲内で実施することになっている。研修計画書を提出するにあたり、事前に5ブロックの会長にお集まりいただき、テーマを決めていくことになる。会長会議の時には、府中市から示すような進め方をしていきたい。会長会議にかける前にテーマをある程度決めておきたいので審議をお願いしたい。

- 昨年度のテーマは「学校を拠点とした地域のつながり～東日本大震災を経て、これからの地域コミュニティづくりを考える～」であった。ここ何年間の第5ブロック研修会は講師をたてずに、各市で事例発表という形をとっている。昨年は、府中、三鷹、狛江が発表をし、その後にグループディスカッションをした。今年の統一テーマに合わせて、第5ブロックのテーマを決めていくことになるので、できたら皆

さんの意見を参考にさせていただきたい。

事務局に聞きたいが、講師をたてるのか、例年通りやっていくのかというのは、府中市で決めていいのか。

- ➡ 第5ブロックの会長会議にかける案として持っていくことはできる。
- 第5ブロックの各市がテーマを持ってきて煮詰めるのか。
- ➡ 第5ブロックの会長会議に府中市の案を叩き台として持っていく。
- 会長市である府中市で開催するのか。
- ➡ 府中市で開催する。
- 府中市の伝統文化を用いた街づくりをすれば府中市らしいと思う。
- 今回、諮りたいのは第5ブロックの統一テーマで、その絆の中に伝統文化というものを生かしても良いと思う。
- 府中市は色々な伝統文化がある。
- 共通テーマに見合ったテーマを決める。
- 伝統文化を手段とした街づくりということか。
- 新しい市民と古い市民との交流のようなものをどこかでマッチングして、そういう事例を各ブロックの市民から出してもらうのはいかがか。そういうのがない市があるかもしれないが…。
- どの町も伝統はあると思う。
- お囃子であれば小金井市でもあるようだ。
- 平成23年度の答申で出した「おせっかい精神」が入ってもいいと思う。
- 最近、新聞でも「おせっかい」という言葉が出ている。おせっかいをした方がいいと言われていてる。
- 震災から1年2ヶ月余り経ち、衝撃的なことだったので長く続くとは思いますが、日が経つにつれて、人と人との繋がりや相手の気持ちになるという、そういう感情も少しずつ薄れていくような風潮になってくると思う。なので、そういう「おせっかい」とか人を思いやるというようなことを入れていったほうが良いと思う。
- おせっかいから「学び返し」に繋がる。今まで議論してきたものが出てくると思う。
- 去年は学校に焦点を当てていた。
- 例えば、府中から持っていったものが、駄目だと削られることもあるのか。
- ➡ 基本的には府中市が掲げたものに肉付けしていくというイメージ。これは駄目というのはまず無いと思う。持っていくものが府中に偏らないようなテーマを作って、その中で府中では何をするのかという考え方になる。それが講演会なのか、例年通りの発表会形式になるのか。

- ただ、伝統文化を持って行って、他市には無いと言われてしまうと困る。
- ➔ ここ数年は3市ずつの発表だった。以前、小金井市でやったときは学芸大の博物館に行ったり、小金井市の取り組みだけを発表した。実際に府中市の発表だけになっても良いと思うが、統一テーマは全体に広がるような内容にしたほうが良いと思う。調布市では演劇をやって、それについて意見を出し合った。方法は色々あると思う。
- 色々な言葉を出していただければ。
- 伝統芸能というのも一つの手だと思う。
- 私自身が熊野神社と関係しているが、文化庁の方から保存会の形式が好ましいやり方だとお話しいただいている。古墳や国史跡、国の文化財が出たと言われても、意外と我関せずで、そこにあるから行くくらいで、その周りの人ですら分からない。たまたま氏子というのがあったので、それに追随していた町内会があるということも一つのきっかけづくりにとても良いと思う。若い人を入れて是非続けてほしいと言われたので、若い人を取り込むにはどうしたらいいとか、そういうところから話題提供するのも良いと思った。小金井市や国立市にもお囃子がある。意外と古墳も整備されていない所が国立市にもあり、やはり寂しいという思いがある。地域住民が関心を持たないと古墳も荒れてしまうのだと実感した。氏子と地域住民がメンバーの保存会には336人中いて、その内50～60人は研修に行っている。そういうきっかけ作りをしてきたということを詳しい人を招いてお話ししていただくことも手っ取り早いと思う。特に、昨日来ていた秋山先生は建築から古墳のことから勉強していて、フランスでも展示会をするような方で、荻谷俊介さんとも交流があるし、おもしろおかしく楽しく研修するには良いと思う。伝統文化を持続するためのやり方がある、という持っていき方もある。もし熊野神社の事例を出せれば府中市のアピールにもなる。
- 例年通り、各市からの事例発表をする形になると、今年度は調布、小金井、武蔵野の事例をいただき、その後お話しをいただくということになる。府中市の出した部分があるならば、講演会の形式でやるしかないかと思う。
- 共通テーマが「絆—わたしたちの輝くまちづくり」ということなので、今の伝統文化の古墳のことについて、府中市を代表して誰かが話しをする。先生を連れてきて話しをしてもらうのではなく、市民が何らかの形で発信するという形にする。その一つの方法としては、中学生や高校生に、府中市の伝統文化について、誇りに思っていることは何か、みんなの前で発表ができる人を募集する。その最優秀の生徒に府中市の代表として、わが町の伝統であり、誇りについて発表をしてもらう。他市は、例えば小金井市が誇る伝統や文化を小金井市の市民代表として発表してもら

うような企画をたててもらおう。それぞれの市が、自分たちの市の良い所をみんなで競い合って発表し、繋がりを求めていくような企画にしてみたらどうか。子どもたちに発表させることで、一生懸命勉強する。発表の仕方も講演形式、文章を書いてそれを発表するというのも一つの方法だが、歌や演劇で発表する等、色々な方法があると思う。

- そういう形の発表があってもおかしくないテーマの文言を考えていただきたい。
- これがわが町の誇りです。わが町の誇る何かというテーマにすると、それぞれの市から様々なものが出てくるのではないか。
- ➡ 今、色々と言葉やキーワード、方法を含めて出していただいたが、この場でいうのも難しいと思う。戻ってから名案が浮かんだ時は事務局へご連絡いただければ、会長、副会長と話しをして、会長会議に持っていければと思う。今日ご意見いただいた、伝統、おせっかい精神、学び返し、誇りの4つ言葉を全部使う必要はないと思うが、そのあたりから探っていただき、良いタイトルがあれば来週中にご連絡いただきたい。そのような形でいかがか。
- 皆さんの話を聞いていて確認だが、事例報告といった場合の事例については、例えば伝統文化であれば、サークルや社会教育の主催事業を事例として紹介するなど、これで町づくりができるという趣旨を考えていくと良いと思う。私たちの文化はこういうものだと発表するだけでは、ただの発表会になってしまう。社会教育であれば、事例をもとに発表する。テーマとしては、文化が紡ぎだす人と町など色々あると思う。その場合もこの町の伝統文化を紹介するのではなく、そういうものを社会教育の場で学び合いをしているというような事例を発表すると良いと思う。世代交流を含めて、地域の繋がりが取り組みとしてあればおもしろいと思う。
- 世代を越えた町づくり、地域づくりをサブタイトルとして伝統文化のようなものを入れればどこの市でもできるのではないか。
- 伝統文化という言葉を出さないテーマの方が、受けた方は自由にできる。
- 共通テーマが“つなぎあい”“にないあい”ということで、世代間交流や生涯学習ということは小さいころから積み重ねてきた人が皆でやっていかなければならないという意味で、世代を越えたという言葉を入れた方がいいと思う。その中に学び返しも入るし、大人から子どもに生活の中で伝えるおせっかい精神も入ってくると思う。その他に良い案があれば事務局にご連絡をお願いしたい。
- ➡ 日程は10月の土曜日を予定している。府中市が幹事市になるので、ご協力をお願いしたい。教育長の予定もあるが、候補として2日程いただきたい。
- 10月20日か27日でよろしいか。6月中には決定すると思う。

2) 最終答申について

■ 教育長からいただいている諮問「府中市の生涯学習における市民と行政との協働について」という内容で、来年の2月か3月には答申を出さなければならない。また、第5ブロックの研修についても時間をとっているかと思うので、今日は色々ご意見をいただき、秋には小委員会でもってまとめていただく形をとらせていただきたいがよろしいか。第5ブロックの研修後に始めてもいいと思う。

今まで色々なご意見をいただいているので、前の議事録を見返しながら言葉を探していただくことになる。

■ 府中市が掲げる協働について、庁内の教育をするための「協働マニュアル」というものがある。これを皆さんにお見せした方がいいと思う。

■ 或いはそれを見ずに、まっさらな気持ちで市民として自分が地域で社会教育として動く中で、どう行政との協働を考えられるかというものの必要な気がする。

■ 拘束されない方がいいと思う。資料は資料として、今までどういうことをやってきたかを理解したうえで、これとは違うなというゼロからの発想で考えてみるのも一つの手だと思う。

■ 今は市民との協働というのは、あまり聞いたことがない。従来の協働というのは組織されたところとの協働なので、市民と行政との協働をどういう捉え方をするかによって方向が変わってくるかと思う。

■ 市民が主役の生涯学習と行政をどう協働するのか。何かそういった事例はあるか。

■ 色々具体的に掘り下げが必要だと思う。例えば市民というのは誰なのか、誰を想定しているのかという確認が必要。あと、協働といったときに中身としては、例えば事業からハード面での施設の運営など様々あると思うが、その縛りこみも必要だと思う。市民として、NPOはかなり意識した分野だと思う。

■ その辺はどう意識したら良いか。NPOも入った市民ということか。

■ 例えば、会社も市民になる。そういうふうにと考えると幅広く巻き込める。もちろん問題意識が大きいので、ある程度縛らないとぼやっとしたままの提言になってしまう。できれば、行政をある程度拘束するような、行政がやるのかやらないのかをチェックできるような提言にしなければならない。

■ 今どういう形の中で考えたら良いかご意見をいただいているが、次回からはこちらの方に協議を進めていけたらと思う。

6 次回の審議会開催について

第3回：6月25日（月）午後2時～4時

府中市生涯学習センター 1階会議室